

# その先の、道へ。北海道

北海道ミニバスケットボール連盟

昨年度、当連盟は設立 40 周年を迎え、いくつかの記念行事を企画しましたが、関係者のご尽力により、無事終えることができました。この場を借りてお礼申し上げます。

さて、この度のタイトルですが、今までの北海道のキャッチフレーズ「試される大地。北海道」が 4 月からリニューアルしたものです。「まだまだ、限りない可能性がある」、「道はまだまだ続く」…と言ったイメージです。

少子高齢化・人口減少・景気低迷…残念ながら実態は厳しいものがありますが、北海道一丸となり、希望を持って多くの課題に取り組んで参ります。

そこで今回は北海道ミニバスケットボール連盟の現状と近年の取り組み、そして「その先」について紹介させていただきます。

北海道は既にご案内のとおり、広域であるため行政区が 14 あり（政令指定都市の「区」のイメージ）、それぞれに「バスケットボール協会（地区協会と言います）」があり、その傘下に「地区ミニ連」があります。

ですから、大会や伝達を行う際には必ず 14 地区の代表が集結する必要がありましたが、近年は、その 14 地区を 5 ブロックに編成し、その後、ブロック内で伝達を行っています。

これにより事実上 5 県というイメージです。

|       |     |    |    |     |    |     |     |    |    |    |    |    |    |    |
|-------|-----|----|----|-----|----|-----|-----|----|----|----|----|----|----|----|
| 地区名   | 札幌  | 函館 | 室蘭 | 苫小牧 | 小樽 | 南空知 | 北空知 | 旭川 | 北見 | 名寄 | 稚内 | 留萌 | 帯広 | 釧路 |
| ブロック  | 札幌  | 道南 |    |     | 道央 |     |     | 道北 |    |    |    | 道東 |    |    |
| 男女チーム | 143 | 28 | 12 | 32  | 9  | 8   | 19  | 36 | 36 | 3  | 3  | 2  | 50 | 31 |

※北見は地理的に道東エリアに属しますがチーム数バランスを考慮し、道北と分類しています。

## 1. ブロック大会

北海道ブロック大会は以下の特徴があります。

- 参加チーム** ⇨ 地区の予選を勝ち抜いた男女各 24 チーム + 開催地枠男女各 4 チーム  
※各地区に 1 枠を付与した後、24 チームに達するまでドント方式でチーム数に応じた代表枠を比例配分。
- 優勝を決めない** ⇨ 完全交歓大会（一つのブロックに 7 チームが属し変則のリーグ戦を行う）  
1 日 2 試合 = 2 日間で 4 試合保証
- 開会式** ⇨ 無し（金曜日に代表者会議を開催するのみ）
- 閉会式** ⇨ 無し（2 試合目が終わると順次帰ります）
- 開催地** ⇨ 道東（帯広） → 道南（苫小牧） → 道北（北見） → 道南（函館） → 道北（旭川） → 道東（釧路）  
6 箇所（6 年間在籍しても同じ開催地は無い）で「遠い → 近い」繰り返しています（と言っても片道 300 km オーバーが頻繁ですが）。後泊するチームも有ります ^^ ；
- 試合会場** ⇨ 男女メイン会場（2~4 コート） + 1 コート施設（小学校体育館等）男女計 8 コート  
小学校体育館ですが、コートはフル企画に近く、観覧席もゆったり取れるところが多い。控え室も校舎を使えます。学校のご理解に感謝…。

ゆっくり来て頂き  
早く帰宅できるように

- (7) **開催時期**⇨8月上旬の金曜日～日曜日
- (8) **指導研修クリニック**⇨H11 から取り組んできた事業です。試合後に両チームの指導者、審判、進行役となる審判主任によって話し合いの場が持たれています。指導者と審判員の規則の解釈のすり合わせや取り上げたファールやバイオレーションを修正するための練習方法、今後のプレイヤー育成のポイント、指導のアドバイス…当初は審判に対するクレームが多かったのですが、次第に意義が周知徹底され、指導者同士の懇親の場として、或いは、練習方法や審判スキルを学ぶことができる貴重な場となりました。このクリニックの後に、審判のみの反省会が行われます。
- (9) **指導者・審判・役員交流会**⇨開閉会式が無い分、どうにか交流の場を持つことができないものか悩んでいたところ、関東ブロック大会に訪問させていただく機会を得た理事長が指導者や役員が一堂に会した懇親会を行っているのを参考にして翌年から早速取り入れました。参加者からは非常に好評です。
- (10) **開催地チームへのクリニック**⇨三菱電機(株)北海道支社の協力によりこれまで札幌市を中心にスポットで行われていた三菱電機ダイヤモンドドルフィンズとコアラーズのトップリーグプレイヤーによるクリニックを H12 からブロック大会開催地で地元のチームの子どもたちを対象に行うことになり、今に至っています。普段、こうした機会に恵まれない遠方地の子どもたちにとっては貴重な体験の場となっています。この模様はテレビ放映、新聞掲載もされています(以下は昨年(2011年)の函館大会の様子)。



その試合、試合で勝ち負けは意識しますが、優勝を争わない分、ピリピリ感はそれほどありません。各地区予選を勝ち抜いたチームに対する「ご褒美(思い出作り)」的な大会です。

## 2. 審判育成

近年、最重点課題として取り組んできた事業で、前記ブロック大会や全国予選となる北海道大会において、年々進化するプレイヤーのスキルに対し、丁寧にジャッジし、プレイヤーの育成にも大きく寄与する審判員。

しかし、大きな大会に各地区から派遣される審判員は母体の協会・連盟の体力如何によって個人負担の差が大きくなっていったこと。ボランティアという言葉で解消できない実態があることに、審判員育成の障害になっていました。

そこで、チームの連盟登録時と大会に参加するチームから幾らかの協力金をいただき、大会に派遣される審判員へ宿泊費を助成し、審判員個人の持ち出しをできるだけ少なくしてきました。

また、この他に北海道内5ブロックに上級審判を派遣し、講習会を定期的に行うほか、ブロック間の審判交流(大会を吹きあう)や北海道から海を越えて他ブロック大会(たくさん「ブロック」が出てきますがここでいうブロックは東海ブロック・北信越ブロック等のことです)へ若手審判を派遣する一方、他ブロックから講師を招いての講習会開催など、スキルアップや意識改革も併せて行っています。

こうした取組みにより、審判員数に厚みが出てきました。

### 3. 指導者モラル向上

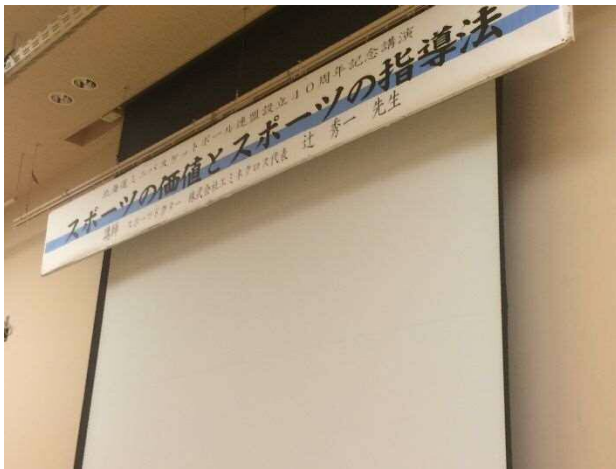
暴力暴言問題を無くすためには、指導者の考え方の根本から変える必要性を感じていました。

未だに蔓延る「根性論」。日本古来の「〇〇道」。精神的なことは確かに大切なことですが、それを指導者が「感情的な指導」にならないよう、我々が見聞きしたことを伝えるのではなく、直接話しを聞く機会を作るため、「スラムダンク勝利学」でお馴染みの辻 秀一スポーツドクターを4ヵ年計画で招き、ブロック内の全チームの指導者や保護者に集まっています。

H26 から始めて道央、H27 に道東で開催。今年は道南、来年は道北で開催します。

こうしたモラル向上、コーチング講習会の経費を毎年捻出するのは非常に困難ですが、(一財)北海道バスケットボール協会のご理解により、バスケットボール競技の初期段階の子どもたちの育成と競技者人口の増大の重要性を認識していただき、事業費を充当してもらっています。

<2015年8月に開催した道東ブロック（帯広地区）での講習会の模様>



### 4. 未来のミニバスプレイヤー発掘

未来のバスケットボールプレイヤー=今のミニバスプレイヤー。

未来のミニバスプレイヤー=今の未就学児童。

つまり未来のバスケットボールをこれからも支えるため、また、より多くの子どもたちがスポーツと親んでもらうためには、「ミニバスは楽しいもの」と感じてもらうこと、そしてミニバスプレイヤーになってもらうことが最も大切なことであるのは周知のごとくです。

そこで、地元NBLチーム（今年9月以降はBLEAGUE）[レバンガ北海道](#)ではホームゲーム小学生無料招待や学校訪問プロジェクト等、(一財)北海道バスケットボール協会や私たちとタイアップして事業を展開しています。

そうした中、今年から、幼稚園、保育所へ「キッズバスケットゴール」寄贈事業を始めました。

実は、前神奈川県ミニ連中瀬会長の地元、平塚市で同様の事業に取り組んで好評を得ているというお話を以前伺い、北海道でもぜひ取り組んで行きたい…そう思っていたところだったので、早々にレバンガ北海道に申し入れ、年間配布数を上乗せできるよう、協力させてほしいと申し入れました。

同時に、(一財)北海道バスケットボール協会にも話をし、それぞれで負担（将来への投資）し、毎年継続した寄贈事業に発展させるべく調整した結果、レバンガの既に発注しているゴールと規格が異なるため、共同制作には至らなかったものの、事業の継続、連携を確認できました。

今年度においては、(一財)北海道バスケットボール協会の普及委員会の暖かい支援（資金援助）により、

道内各地区に1台配付し、次年度以降も継続して行う息の長い事業として取り組むことになりました。

ちなみに、道ミニ連盟の経費は、日本ミニ連で普及事業費を全国9ブロックで活用できるようにしたこと  
から、これを充当します。

この寄贈にあつては、私たちが出向くのではなく、可能な限りレバンガ北海道の選手で対応してもらいま  
す。想像してください。幼稚園に2m選手が現れるのを…。少しでも興味を持って、バスケットを身近に、そし  
て面白いと感じてくれれば…

今いるプレイヤーを育成するのみではなく、もっともっとプレイヤーの裾野を広げる重要性、未来への投  
資を理解していただいていることに感謝しています。

## 5. その先…

今回、ご紹介したのはほんの一部です。昨年から取り組み始めた、「地域学年別合同練習（札幌地区～恵庭  
市）」や卒業する6年生を対象に中学との連携を目的とした「レッツ・トライジュニアハイスクール（帯広  
地区）」…地区、地域レベルで取り組んでいる事業がまだまだあります。

一方で、今まで紹介した事業も全国のブロック、都府県を参考に取入れたことがたくさんありましたが、  
まだまだ、参考にすべきものがあると思います。

今回からスタートした紹介事業を契機に色々と取り組み、情報交換しながら「その先…」に進んで参りま  
す。

第1回目のブロック紹介。北海道 Version は如何でしたでしょうか。

参考になれば幸いです。

平成28年8月

全国のみなさまへ

北海道ミニバスケットボール連盟

理事長 小林 勉